

菊陽人 りさーち



きたじま あおい
北島 蒼彩さん
(7歳・大堀木)

- 趣味
鉄棒、縄跳び
- 将来の夢
お金持ちになりたい
- 自慢できること
ピアノができること
- 今一番やりたいこと
友達とたくさん遊びたい

「菊陽人りさーち」に掲載を希望される人は、はがきに「氏名」「年齢」「住所」「連絡先(昼間)」を明記のうえ〒869-1192菊陽町役場総合政策課「菊陽人りさーち」係までお送りください。
注)掲載対象は、小学生以上で菊陽町に居住している人に限ります。親子、祖父母と孫など2人1組での掲載もできます。掲載が決まりましたら、こちらからご連絡させていただきます。



てしま あいむ
手嶋 愛夢さん
(7歳・津久礼ヶ丘)

- 趣味
紙粘土で動物を作ること
- 将来の夢
お姫様
- 自慢できること
鉄棒ができること
- 今一番やりたいこと
砂場で滑り台を作りたい

ゆたかな心をはぐくむ 人権のひろば

子どもの目、子どもの声
人権
作文シリーズ
【No.49】

問い合わせ
人権教育・啓発課
☎232-2113

※作者の学年は前年度の在籍学年となります。
◇印からの文章は先生のコメントです。

学習会キャンプ

菊陽北小学校3年 松永 伊吹

ぼくは、学習会のみんなと、学習会キャンプに行きました。キャンプ村に着くと、ワクワクしました。まず、川遊びをしました。水が冷たくて、水みたいでした。魚をあみでつかまえました。ひとすくいで二ひきとれました。六、七ひきとれました。最後は川にがしてあげました。

次に、夕ごはんのじゅんびです。まず、火おこしをしました。火おこしの道具を使ってやりました。力いっぱいおきました。うでがいたくなりました。ちよつとだけ赤くなつたけど、もえませんでした。みんなで交代しました。だけど、とうとう、ぼくたちのほんはつきませんでした。とつてもくやしかったです。

一番楽しかったのは、夜のテントでした。ぼくたちはねむつたふりをして、トランプをしました。かい中電灯をぶらさげて、先生たちに見つからないようにやりました。先生たちが来たときは、電気を消したので見つかりませんでした。電気を消したら、真っ暗でとつてもこわかったです。

こわかったから、目をつぶっていたら、いつの間にか、ねてしまっていました。ぞつたいねたくないと思つていたので、もつたいなかつた。



▲火おこし体験

たなあと思いました。中部小の4年生の人と友だちになりました。このキャンプは、一生の思い出になりました。来年もまた、みんなで遊びたいです。

◇「太陽山びこ解放子ども会」は、毎年キャンプに行っています。みんなで協力し、できることは自分たちでやりながら、なまづくりをしています。差別をなくそうと行動している菊陽中部小や菊陽中のなかまも一緒に参加してくれる楽しいキャンプです。

水俣学習で学んだこと

菊陽中部小学校5年 山元 幹大

水俣学習で心に残っていることは、差別に負けず、裁判までがんばった水俣病患者さんたちや家族の勇気です。ぼくは、今まで、相手から追いつめられたらあきらめるしかないと思つていました。しかし、水俣の人々は負けなくて、一生懸命にみんなに分かつてもらおうとがんばりました。だから、ぼくも、追いつめられても、相手が悪いのだったらたかおうと思つていました。

ぼくたちは、水俣学習で学んだことを構成詩にまとめ、発表しました。発表会を通して、ぼくは絶対に差別をしてはいけないという意識が強くなりました。患者さんたちの思いをもう一度考えながら発表しました。しかし、口だけ言つても何も変わりません。だから、これからも差別をなくしていこうという思いをもつと強くしていきたいです。

きくよう文芸

菊陽句会報

啓蟄や小虫に悲鳴孫娘	坂本百合子	舗装され消えてしまひし花すみれ	井上久美子
夜回りの声遠ざかる春の宵	田中 郁子	土筆ん坊整列してゐる散歩道	宮川ユキエ
暮参かな未黒野の阿蘇仰ぎては	井 子文	句心のふつと湧きたる梅咲けば	日高 妙子
来し方をたぐり寄せたる臘月	原野レイ子	大望も不安も抱き卒業子	曾我 育代
義手の手に心の詩と春の詩	力 幸子	春愁や冷気に纏るバスの酔ひ	曾我トモ子
木目込の雛睨むか達磨さん	寺尾千代子	ひともしのぐるぐるせよと勢ひ生ふ	紫藤 祥子
雪柳小さき調べの生まれけり	高橋 孝子	秘め事を隠すに薄き春シヨール	村上 朋子
母見舞ふ一言悔ひて時雨かな	堀川 妙子	岩苔の彩鮮やかに春の庭	野口 令史
春一番世界が変る時来るか	福田 貴子	故郷を捨てて金婚おでん酒	松橋 強
春風や床屋を出たらついで来る	佐藤 健	草原の草木も春の衣更え	小中 栄
名物は赤線太き市の鈴	佐藤 節	孫迎へ冬日の中へ馳せて来し	藤本 純子
保育園新築成りて春を待つ	吉野 早苗	それぞれの未来を見つめ卒業歌	佐藤 澄世

短歌会

正月に庭に植え居し葉牡丹を二羽の小鳥が日毎ついでむ
寒暖の差の厳しかりこの冬を越してオクラの黄色き花咲く
主なき庭にも春の訪れて声も幼く鶯のなく
しなやかに雨に濡れつつ柳葉は風に吹かれて春に向はむ
鶴来れば茂みに目白は潜みけり去れば出で来て椿の蜜吸う
雨に濡れし花は一際輝きてうす日の差して庭の明るし
メジロ二羽咲き乱れたる山茶花の花の中に轉り交わす
花々の香に満たされて温室に薄紫の花求めたり
頬を吹く風寒くして立つ露台遠き山並みに煙湧く見ゆ

今村 貞子
梅田 國雄
河北 幸一
菊川あさみ
佐藤せい子
下田 久子
中村トシエ
山川 カヅ
松本 東亜



▲水俣学習

◇水俣学習で差別と闘った人のことを学び、自分も負けないという強い思いを感じることができました。

ぼくは、今年、パークドームであった熊本県人権子ども集會に参加しました。たくさんの方が参加しているのに、静かな雰囲気でした。小学生から高校生まで、ここに集まっている人は、みんな差別のことをしっかり考えていると思つていました。理由は、みんな集中して聞いていたからです。小学生と高校生の発表の中に、名前のことが出てきました。名前を変なふうに変えて呼んだり、ニックネームをつけられたりといやな思いをしている人がいることを知りました。名前にはお家の人たちのいろいろな思いが込められています。発表してくれた小学生が言った「名前をしっかりと決めてくれた親に感謝」という言葉が心に残りました。ぼくは自分の名前がもっと好きになりました。